

幼 兒 の 教 育

昭 和 十 四 年 一 月

實 際 に 擔 ぶ 者 の 力

幼兒の保育に就て、その重要性の認識が、近來頓に加はつて來た。又、その研究も著しく進められて來た。社會問題、教育問題といふ部分的觀點から、國家問題としての大きい全面的觀方に於て、論議せられもし、促進せられもする聲が高くなつた。それが、此の時局に伴ふても一段々強調せられてゐる。

此際、論者々施設者々、或は又理論的研究者々に對して、その大切なる幼兒を實際に擔ぶ者の力が最も切に要求せられる。それは母を助くる幼兒保育者の、専門家としての頭腦々熟練々、而して、實に自ら進んで國の幼兒を擔はんとする熱意々である。之れなくして、論議も空しい。

或る時は、此の熱意が社會の無關心の中に孤立した。又時には社會の無理解に孤立した。今日は……尤より未だ充分多くを達し得てゐる言は言へないが、孤立、孤立に比する此の順勢の裡にあつて、その責任は倍加せられてゐる言はなければならぬ。

新しい年々共に、新しい力が、實際に擔ふ力を加へんことを。眞の生きた力は實際に擔ぶ者にのみ盛り上る。